

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 齋藤 博紀

主査 准教授 神山 俊哉  
審査担当者 副査 教授 平野 聡  
副査 教授 佐邊 壽孝  
副査 准教授 本間 明宏

### 学位論文題名

肝門部胆管癌における術前予後予測スコアリングシステムに関する研究  
(A study of the prognostic scoring system using preoperatively available factors to predict survival after surgical resection of perihilar cholangiocarcinoma)

本研究は、術前に測定可能な血液生化学的検査値を用いて肝葉切除を伴う根治切除を施行した肝門部胆管癌の予後予測を可能にするスコアリングシステムを提唱したものである。本研究のように、肝門部胆管癌症例の臨床データを詳細に検討し、予後予測システムを開発した報告は他にない。このことは、肝門部胆管癌に対する大量肝切除を含む新たな手術治療体系の確立に寄与する貴重な研究成果であることはもちろん、今後、肝門部胆管癌全体の治療戦略に影響を与え得る新たな知見であると考えられる。

審査にあたり、副査の佐邊壽孝 教授より **Systemic Inflammatory Response** に関して質問があった。申請者は現在の研究成果の限界に関して文献的考察を混じえて説明した上で癌と宿主の関係を述べた。副査の本間明宏 准教授より手術適応・手術術式の一般化に関する質問に対しては肝門部胆管癌の適応・術式については尚、施設間格差が存在する現状を説明した。副査の平野 聡 教授より予後不良群の全生存率、疾患特異的生存率、無再発生存率が近似している事実に関する質問に対しては腫瘍の悪性度が高度であること、抗癌剤の奏率が低いことが要因であると説明した。最後に、主査の神山俊哉 准教授よりリンパ球数の欠損した 6 例を含んだ多変量解析の是非、スコアリングの得点の重み付けと **Hazard Ratio (HR)** の関係に関する質問があり、欠損値の割合が低いこと、**HR** の値がほぼ同等である事実より本研究の統計学的解析手法に問題が無いことを説明した。

全ての質問に対して、申請者はその主旨を的確に理解し、文献的考察を混じえて概ね適切に回答した。また、今後の課題や展望についても、逐次的に解決すべき問題を明確に挙げ、研究結果の応用について自らの考えを示すことができた。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。